

	<p>2003年3月15日 第35号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  <a href="http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/">http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</a>  E-mail : <a href="mailto:mizumidori@nifty.com">mizumidori@nifty.com</a>  〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124</p>
---	---

## 梅まつりに 今年も水と緑の会が参加

3月1日、2日に開催された区主催の梅まつり（赤塚溜池公園）に、水と緑の会も参加しました。1日は10時から準備したが、悪天候を見こして人出も少なく、午後は降りだした雨で人影も消え、早々に店じまいしました。2日は10時から3時まで店を開き、北風が強くて晴天のわりに体感温度は低い日でしたが、大勢の人が梅まつりに来られ、当「水と緑の会」の会場も大盛況でした。以下にその概要を報告します。



### [場所と出し物]

場所は昨年と同じ、美術館前の自然池の入口前です。池の柵に沿って自然池紹介のカラーパネル4枚を提示し、「ペンダント作り体験コーナー」の表示幕(?)や会の幟旗でシイの樹の下の場所を表示しました。そこには2組のノコ挽き作業台と、折りたたみテーブルを2つ並べた大きな台に、3,40本のカラーペンと3種類の吊り紐や錐などを置き、回りに折りたたみイスを配置してペンダント作りの作業場にしました。

ペンダント用の素材の樹は、公園課で間伐し1.5m位に切ってあったシロダモで、切り口5~10センチ位のを頂き使用しました。

また、自然池の入口を開けて、自由に橋の上から池の中を覗き込めるようにしました。

### [イベントの状況]

ペンダント作りは、やはり8割方は子供達でしたが、お孫さんの土産にと何も画かないで持ち帰

る人もいました。お年よりの方も大勢ノコギリで木を切ることに挑戦されました。女の年配の方では初めての方が多かったが、中には工務店を継いでいる方など上手に鋸を使う人もいました。年配の男の人は懐かしんで丸材きりを楽しまれた人が多かったようです。子供を連れてお父さんが細かいアドバイスなどで親子の絆も強められたのでは、また、帰りにお礼を言うよう子供に注意する親御さんが多く、徳育にも役立ったものと考えます。

使っている樹は何かと質問する人がかなりあり、篠原先生が丁寧に生態などを説明されている情景が見受けられました。

薄い輪切りにするので、最初に鋸を入れるのは此方で行い、体験者の技量を予想して切り込みの深さを調節しました。小さいお子さんなどには、手を割えてやり怪我を防止すると同時に、うまく切れたぞ！という満足感も与えられるよう、また、多くの人が待っているのに余り停滞しないようにも配慮しました。

樹は生に近くノコギリは2本とも今回買ったものでしたから、みんな驚ほどよく切れたので気持ちよく輪切りにする事ができたようです。

最初は近くで体験を躊躇される人に、声をかけて加わってもらいましたが、参加者が増えてくると対応にたてこ舞いの盛況でした。



参加者は最初の日が20人位でしたが、2日目は200人近くが参加。用意したペンダントにリボンをつける金具(210個)が3時前に品切れになる程でした。グループでは、区内のカブスカウトと日本語の勉強に来ているという(10月から1年)香港の青年(10人)があり、ペンダント作りを体験して帰る際に一緒に記念の写真を撮るほどのはしゃぎぶりでしたから、些か国際親善にも役立てたものと思います。



一方、自然池の方は2月22日(使用する樹の準備、ゴミ拾い他準備)にはガマガエルが2、3匹現れていましたが、梅祭りには橋のすぐ南側に産卵があり、来られた人たちには泳いでいる蛙と卵を見もらえるよう案内し、大変喜ばれました。なお、今日は特別に入れるが、普段は水草など植物保護のために入れないことも説明し、協力をお願いしました。

木陰で北風の吹く中での作業でしたが、多くの人に喜んで帰って頂けた充実感で、疲れを忘れ気持ちよく帰途に付くことが出来ました。

## 板橋の崖線林をたずねて

水と緑の会や環境保全課の自然回復ボランティア活動講座で、赤塚公園あたりの段丘崖に出かける機会が多くなった。

そこは公園として整備されていたり、緑地として保護されていたりする。

コナラ、クヌギ、ムクノキなどの高木が斜面を覆い、東京の街の中を忘れさせる光景である。しかし、この森は幅が20～30mの線状で、崖の上も下も家屋や道路がせまり、林縁の袖群落やマント群落の欠けたきわめて不安定な森である。

林内も整備される以前からあった高木に、整備のために植栽されたアオキやネズミモチ、ツツジの類が、垣にそって植えてある。下草は刈られ、落ち葉も掻き取られて、踏み固められたローム層がむきだしである。自然に生えたと思われる低木や幼樹は見当たらない。市街地の公園としてやむを得ない気もするが、痛々しい姿である。

最近、各地で自然が失われ、自然回復や自然再生推進が叫ばれるようになった。しかし、求める自然のイメージはあまりはっきりしない。武蔵野の自然回復の目指す姿も、大戦前の雑木林なのか、もっと古く和歌に詠まれたススキや萩の秋草の風景なのか。いずれにしても大変なことである。不可能かもしれない。

市街地の公園や緑地であってみれば、住民あってのものであり、人手を加えていかななくてはならない。単に放置すれば、暗い不気味な森となり、ゴミ捨て場と化してしまう。反対に、あまりにも手を入れすぎれば緑地の意味がなくなる。赤塚大門地区のニリンソウ保全活動がすばらしい成功を見せているが、単一種の保護ということで、今後の課題も浮かび上がっている（倉本巨氏、生態学から見た身近な植物群落の保護より）。各地の里山の回復、水田の再生、湖沼の再生などの事例をみても、住民の活気が原動力となっている。住民の自然を見、考え、活動していく力こそ大切であろう。住民の活気こそ力となる。

ナガバノシロワレモコウ、オグルマ、サワアザミ、ムシャリンドウ、マツバニンジン、シロネ、クマヤナギ、エビヅル、クロウメモドキ、シムラニンジン、ムカゴニンジン。これらは、江戸の植物学者、岩崎灌園の志村辺りの薬草のリストアップである（野村圭祐著「武江産物志」を読むより）。江戸末期の赤塚あたりでもこうした植物が見られたであろう。うらやましくなる自然である。

現在の赤塚の崖線の植生は、はるかに見劣りがするものであるが、散策する度に、ニリンソウ、カニクサ、カラスノゴマ、ヒナノウスツボなど、うれしくなる発見がある。

北に面した斜面や神社の境内などで、利用しづらく、かろうじて残された崖線林と思われる。こうして残されたことへの感謝と、今後も大切にしていきたいものである。

篠原 智男

篠原先生の「四季のおくりもの一植物画」展は、赤塚植物園で3月25日から30日まで開催。

## 赤塚トンボ池の管理方針について検討会(平成15年2月1日)

前号のアメリカザリガニが日本ザリガニを駆逐したとの記事について、三島次郎先生からお手紙をいただきました。日本ザリガニは北海道・東北の冷たい水に住むザリガニで、アメリカザリガニの繁殖とは別の話とのこと。日本ザリガニについての資料も送っていただきました。

先生の御著書「トマトはなぜ赤い」に、外来の生物が定住できる条件として、雄・雌一つがい以上で渡来したこと、その土地の風土の耐えられること、エサが十分あること、受け入れる空白(ニッチェ)があること、近親交配が悪影響をもたらさないことなどがあげられています。トンボ池は、ザリガニにとって競争相手や天敵のいない空白なのです。

2月1日の調査では、池と湧水の水温を測りました。湧水の水源は少し離れたところにあり、管を通して水路に来ています。水温は水路が始まる場所では13.4℃、水路を流れていくうちに水温はだんだん下がって池の入り口で7.9℃。池の水温は4.1℃、低温に弱いザリガニにとって、水路はうれしい越冬場所になります。

さて、このような状況のなかで、調査しながら少しずつ実験を重ねて、トンボやオタマジャクシもザリガニと共存できる環境をつくっていかうというのが、トンボ池管理のテーマです。

**対策案**

- 1 池に湿地や干潟をつくり、水草の生育を促す
  - (1) 下流側の水路を掘り下げて池の水面を下げる。
  - (2) 土を入れて浅くする。
  - (3) 入ってくる湧水を堰止め、部分的に干上がる状態にする(湧水は水路を流す)
- 2 ザリガニの個体数を極力減らす

水研クリエイトの尾坂さんによると、せっかく植えたヨシの生育には、湿地~少し乾いた土の場所が必要です。1の「湿地や干潟をつくる」について、(1)案は、測量の結果、水路下流の地盤が高く、水位が下がるほどの高低差がとれないことがわかり、×となりました。また(2)案については、池はいずれ埋まるものなので、土を入れるのはやめようということになり、最終的に、(3)案になりました。

**池縁は干し気味になるように、湧水の流入をコントロールする**

2のザリガニの捕獲についてですが、池の面積に比べてすごい捕獲量です。ザリガニは共食いするので、捕獲しなくても今の個体数程度なのではという声もありました。池全体のザリガニの個体数調査ができないかという意見もありました。ザリガニが動き出す早い時期からこまめに捕獲し、繁殖の抑制効果を見ることになりました。

**雑草は自然池の付属物**

池周りを雑草で汚しておくのはまずいと思っている人が会員の中でも多いようです。庭や畑の手入れの延長で見ると、きれい好きには気持ちが悪いものなのでしょう。しかし、この池は自然の池として位置づけられているので、野草（雑草ではない）もその一部と考えます。身近な自然がごく当たり前になれば、私たちの意識も「草ぼうぼう」に慣れるでしょう。

以上が検討会の合意事項です。自然地として管理するには、調査・勉強をしながら、管理手法が適切か、目的にあっているか、見直ししながら、関わっていくことが基本と思います。

### 赤塚城址の斜面を守る柵が壊された・・・もう直さないことに

11月の観察会では何ともなかった柵が見事に壊されていました（いたずら）。何もしなければ自立していた柵ですが、柵の枝も4年たっているので、壊そうと思えばカンタンに壊せる。この柵は会が赤塚公園管理所の川田所長さんをお願いし、はじめて許可されてつくった柵です。剪定枝だけでは弱いので、補強用の杭を買いました。柵の目的は、二つありました。一つは広場から斜面に入る人が多く（子供だけでなく大人も）林床が荒廃するので、人の立ち入りを抑制する、もう一つは林縁に緩衝地帯をつくる、というものです（それまでは通行のじゃまになると言う理由で、広場側の枝が剪定されていた）

公園管理所に柵の破損の報告と修理の相談に行きました。「汚いのでコンクリート擬木柵にする」ので「修理は不要」とのこと。梅まつりを控え、シュロ縄で間に合わせの修理しました。

いたばし水と緑の会では、平成10年10月、建設局公園緑地部に赤塚公園の管理についての要望書を提出し、東部公園緑地管理所、赤塚公園管理所との話し合いによって、会の要望や活動を認めていただきました。その経緯については会報「みずみどり」の9号（平成10年11月号）、10号（平成11年1月号）、11号（平成11年3月）または、会のホームページをご覧ください。新しい会員が増え、行政の担当者にも異動があります。スタートに立ち返って考えてみる必要がありそうです。

## 総会に向けて 平成14年度活動報告と今後の課題

いたばし水と緑の会のように、ビオトープと関わっている会では、「自然地として管理すること」と「自然の状況を把握すること」そしてボランティアなので「楽しく」の三つが求められます。このことは14年度の課題でもありました。手を加えたことで、どんな影響があったか、それがどう変化していくか、見守り、調査をし、一般の人たちに知らせていくことが重要で、市民団体ならではの役割といえます。15年度もそのことを考えていく必要があるでしょう。

公園をフィールドとしている団体を見ると、清掃や除草、枝切り、花壇の管理などの作業をしている団体と、観察会を実施している団体とに二分化しているように思います。いたばし水と緑の会は、ビオトープづくりに関わってきたので、この二つ面をもっていることが会の特徴です。私達には、専門家の調査は出来ませんが、ずっと見守ることはできるし、専門家の指導を受けながら自分

たちでできる調査をしながら、新しい発見を楽しみ、私達自身も成長していきたいと願っています。

### 定例観察会と清掃

毎月、定例的に赤塚城址周辺を観察しながら、ゴミ拾いをしました。壊れているところがあれば直します。

### 赤塚トンボ池等のザリガニ捕獲

捕獲数1809匹(前年は1001匹)は、あきれの数です。

### バッタ広場

手を入れないことによる自然の復元力に感動した1年でした。夏のバッタ観察会では、オオカマキリ、ハバビロカマキリ、チョウセンカマキリ、コカマキリと4種類のカマキリを採集して観察。だれでもバッタをつかまえて観察できるのがいい。ボーイスカウトの子供達、エコポリスセンターの観察会、地元の子供達もバッタと遊べる広場として人気のスポットになりつつあります。

生えてきた木は、まさに2000年生まれの「ミレニアム ツリー」です。このまま「ミレニアム フォレスト」にはならず、バッタ広場のまま成長はストップします。総合学習がはやっていますが、大人子供を問わず、私達の総合学習のフィールドとして、活用を考えたらおもしろそうです。



バッタ広場(3月8日)、エノキの幼樹がめだつ

### 斜面林の柵

斜面林を守るため1999年6月に柵を作って4年目です。斜面は土砂がえぐれ裸地化していますが、アズマネザサが広がり、林床を守ってくれそうです。会の柵は撤去されるそうですが、よしとしましょう。

### 3つの自然池の状況

徳丸が原公園の自然池は、管理らしい管理もせずに自然のままにしています。隣に保育園ができ、ザリガニの他に、ウシガエルのオタマジャクシが大量にいます。水際は踏み荒らされて植物の生育はよくありません。ただしヤナギの生垣は部分的に成功しています。水は全く補給していません。しかし水は透明できれいです。が、トンボのヤゴは見あたりません。水深が浅く、日当たりがよく、水草もまだ生えている(減少気味)ところが、赤塚池よりよい条件ですが、公園のなかにある池で、水を取り巻く環境が非常に貧しいピオトープです。

赤塚池は二つともザリガニの影響が大きく悩みの種です。13年の夏には水の中にヨシを、水際にはオギを植えました。いずれも荒川の植物です。ヨシは3年ぐらい経つと生育がよくなるとか、今必要なこと

は水草が茂る環境を整えて「待つ」ことです。

### 赤塚公園観察会と意見交換会

赤塚公園の観察と森の勉強、午後は意見交換会。公園を管理している行政も参加して、活発な情報交換、意見交換を行いました（自然発見ウォークにかわる催しです）。

**その他いろいろありました**・・・草原植生調査(とりまとめ中)、長野合宿と自然学校、荒川鳴く虫観察会・バッタ広場観察会、夜間昆虫観察会、目黒自然教育園見学、そして梅まつりに参加等

## (財)日本生態系協会「環境シニアスクール」参加

自然と共存した地域づくり・国づくりを考え、実践していく講座です。是非ご参加を！

対 象：60才以上（または近々定年退職される方）社会・環境問題に関心を持ち、何か社会の役に立ちたいと思っている市民。

参加費：全8回で15000円

会 場：豊島区立勤労福祉会館（池袋）他

日 時：平成15年4～7月の火曜日。14:00～16:30（月2回程度）

申込方法：氏名、住所、電話（FAX）、年齢、所属を記入し、郵送またはFAXで下記へ。

171-0021 豊島区西池袋2 - 30 - 20 RJプラザ3F（FAX5951 2974）

（財）日本生態系協会 環境シニアスクール係へ

## 第7回総会と懇談会のお知らせ

いつも参加できない方も、この機会に顔を見せに来てください。

日：時：4月26日（土）14:00～16:00

場：所：赤塚5丁目集会所（和室）

議 題：（1）平成14年度活動報告と会計報告について、（2）平成15年度の活動方針・活動計画について、（3）その他

懇親会：（飲み物あり）会の活動のあり方について、学習会のテーマややりたいことなど。日頃参加できない方の感想・意見、歓迎します。

持ち物：参加費500円、名札

# 活動のお知らせ

**運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。**

4月運営委員会 日時：4月4日(金) 18:30~20:30 前野区民センター集会所

5月運営委員会 日時：5月2日(金) 18:30~20:30 エコポリスセンター

**4月の運営委員会は前野区民センター(前野町2-43-15)です。お間違えのないよう。**

**会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく**

日時：5月15日(木) 17:30~ 場所：エコポリスセンター

**活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)**

毎月第4土曜日が定例の活動日です。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然観察とゴミ拾い、その後必要な修理等の管理を行います。観察会は原則として雨天も実施します。

## 観察会

日時：3月22日(土) 10:00~12:00 場所：赤塚トンボ池(美術館前)

内容：早春の観察会とゴミ拾いも兼ねて。

持ち物：軍手

## 環境なんでも見本市

日時：3月29日(土) 10:00~16:00 場所：エコポリスセンター地下1階

10:00~分科会報告(ゴミ分科会、まちづくり分科会、総合学習分科会)

11:00~総合学習の取り組みの実際 13:00~団体・企業の取り組み発表

環境なんでも展示会(パネル展と交流)(4月3日まで)いたばし水と緑の会も出展

主催：板橋環境会議実行委員会

**総会** 7ページをごらんください。

日時：4月26日(土) 13:00~16:00 場所：赤塚5丁目集会所

持ち物：未払いの方は年会費2000円、名札

## 勉強会「ピオトープを守る・ピオトープとつきあう」

日時：5月11日(日) 14:00~16:00 場所：赤塚5丁目集会所(未定)

講師：桜美林大学名誉教授 三島 次郎先生

その他：会場が未確定なので、事務局瀬田または坂本(3968)9760までお問い合わせ下さい。

